

災害に備える

SH14-3⑥-KG3-042/SH24-3⑥-KG3-042/SH34-3⑥-KG3-042/SH44-3⑥-KG3-042

生活科学部 > 食物学科
1年生 2年生 3年生 4年生
2単位 集中
演習
選択

研究室：527（堀川）

大土井 亮輔、神田 敬三、山下 弘彦、劉 永恩、堀川 涼子

〔ディプロマ・ポリシーの要素との関連〕

専門的職業人として円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション力を身につけること。

〔授業の目標〕

本授業では、災害発生後の行政の対応や、避難所設置、ボランティア活動など、発生後の復旧、復興の流れを理解し、現場で活躍できる防災士として必要な能力を養うことをめざす。

〔授業の内容及び方法〕

授業はオムニバス講義形式で行う。地域の防災活動、減災や危機管理の概念を具体的事例を取り上げながら説明する。防災訓練では、グループワークによる実技演習を行う。この授業では、実際に防災や災害支援等に関わっている専門職等も担当し、現場理解を促す事例を紹介する。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、地震・津波の備え
- 第 2 回 風水害・土砂災害等への備え
- 第 3 回 被害想定・ハザードマップと避難情報
- 第 4 回 耐震診断と補強
- 第 5 回 災害情報の活用と発信
- 第 6 回 行政の災害救助・応急対応
- 第 7 回 避難所の設置と運営協力
- 第 8 回 地域防災と多様性への配慮
- 第 9 回 災害と保険、都市防災
- 第 10 回 災害ボランティア活動（Ⅰ）
- 第 11 回 災害ボランティア活動（Ⅱ）
- 第 12 回 防災訓練① 実技訓練
- 第 13 回 防災訓練② 図上演習
- 第 14 回 専門職と防災活動
ゲストティーチャーを招請する
- 第 15 回 防災士に期待される活動

〔課題及び授業時間外の学習内容〕

各授業担当者ごとにレポートを課す・自主学習

〔授業の到達目標〕

学生が、防災士として必要な災害対応、緊急援助技術を修得できるようになる。新たな減災、危機管理の手法を身につける。防災訓練を実施することにより、初期消火、応急手当、図上演習の指導ができるようになる。

〔履修上の注意・要望等〕

災害は身近に起きるものであるということを認識して授業を受けること。また防災、減災に関する新聞、ニュース等、時事問題に関心をもつこと。

〔授業外の学修（予習・復習等）について〕

授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。授業の前後にICTを活用したe-learningを行うこと。レポートを含め、おおむね30時間の自主学習時間が必要。

〔アクティブ・ラーニングに関する事項〕

外部機関と連携した課題解決型学習、実習、フィールドワーク、討議（ディスカッション、ディベート）、グループワーク、ICTを活用した自主学習支援（e-Learning）

〔オープンな教育リソース（例：edx、Coursera、JMOOC等）〕

〔評価方法〕

授業で指示された課題の実施状況により単位を認定する。

〔評価のフィードバック方法〕

レポート等の評価は成績をもって行う。

〔教科書〕

防災士教本（日本防災士機構）

〔参考文献〕

〔キーワード〕

防災士、自主防災活動、ボランティア、緊急援助技術、復興、共助・協働

〔免許・資格に関する情報〕

◎必修_防災士試験受験資格